

## 【競技規則】日本ティーボール協会（協議規則より一部抜粋）

### 1. 競技場と道具について

#### ①競技場（グラウンド）

塁間 16m

#### ②用具（NPO法人日本ティーボール協会公認品使用）

使用球 11インチ・ティーボール（黄色）

バット 表面ポリウレタンバット（S・Mサイズもしくは70・76cm）

グラブ 使用可能

#### ③バッターズサークル

本塁プレートの角を中心として、半径3mの円を描く。打者はこのサークル内で打撃を行う。

#### ④バッティングティー

バッティングティーは、本塁プレートの後方50cm以上1m以内の間に置く。

### 2. 競技者について（図参照）

#### ①競技者（打撃者、守備者とも）は10名とする。

10名の守備者は、本塁手（ホームベースマン）、1塁手（ファーストベースマン）、2塁手（セカンドベースマン）、3塁手（サードベースマン）、第1遊撃手（ファーストショートストップ）、第2遊撃手（セカンドショートストップ）の5人の内野手と、4人の外野手に分かれる。外野手は、左翼手（レフトフィルダー）、左中堅手（レフトセンターフィルダー）、右中堅手（ライトセンターフィルダー）、右翼手（ライトフィルダー）に分かれる。

（図参照）



### 3. 守備者について

- ①本塁手は、打者が打撃を完了するまでは、バッターズサークルの外（ホームベース（バティングティー）後方（打球の当たらない場所））にいないといけない。
- ②全ての守備者は、打者が打撃を完了するまでダイヤモンド内に入ってはいけない。
- ③打者毎に守備位置変更のためのタイム延長は認めず、打者の準備が整い次第、試合を再開する。

### 4. 打撃規程について

- ①打者は審判が「プレイ」と宣告した後、バティングティーの載せたボールを打つ。
- ②打撃時の軸足の移動は1歩までとする。2歩以上動かしたときは、ワンストライクが加えられる。ツーストライク後からこれを行ったときは、打者は三振である。
- ③打者がボールを打たないで、ティーだけを打ったときは、空振りでワンストライクが加えられる。ツーストライクからこれを行ったときは、打者は三振である。
- ④ツーストライク後からのファウルは、打者アウトである。
- ⑤打者の打ったボールが、本塁プレートから3mの円の中にボールがあるときは、ファウルとする。
- ⑥バントやブッシュバントは認められない。ツーストライク後からこれを行ったときは、打者はアウトである。
- ⑦攻撃時、走者・打者以外の試合に出場している競技者（ピブス着用者）は、本塁手後方の安全な位置に待機し、打者が打撃完了後、速やかに移動し打撃の準備を行う。
- ⑧ティーボールは、フルスイングで遠くにボールを飛ばすことが醍醐味であり、意図的にハーフスイングやダウンスイングを行ってはいけない。

### 5. 走塁規程について

- ①走者は打者が打った後、離塁することができる。走者の離塁が早いときは走者は離塁アウトになる。
- ②盗塁は認められない。
- ③スライディングは禁止する。（行くと走者アウト）。走者の1塁、2塁、3塁での駆け抜けは認められる（走者は塁ベースを駆け抜けた後、進塁の意思がない場合には、野手にタッチされてもアウトにならない）。

### 6. 試合について

- ①2チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者（10人）が打撃を完了した時点で攻守を交代し、3イニングもしくは2イニングを終えたとき、得点の多いチームが勝者となる。予選リーグ戦に限り、予定イニング数終了後、同点の場合は引き分けとする。
- ②球審によって、「プレーボール」が宣告されると、試合は開始される。
- ③フェアボールとファウルボールは、野球やソフトボールと同じであるが、バッターズサークルフェア地域内のライン上で野手がボールに触れたり、ボールが止まったときはフェアボールとする。

- ④インフィールドフライのルールは適用しない。タッチアップは適用するが、10番打者時のみ適用はしない。
- ⑤試合時間は、予選リーグ戦と決勝トーナメントの決勝戦は30分とし、それ以外の試合は参加チーム数により変動するが、概ね20分を目途に試合を終えるようにする。攻守交替は駆け足で行う。
- ⑥選手交代は主審に告げ“ヒブス”の取り替えを行い出場する。一度出場した選手の再出場は認められない。
- ⑦トーナメント表番号の若い方を一塁ベンチ、先行とする。
- ⑧メンバー表は提出しなくてもよい。

## 7. 得点について

- ①走者がその回終了までに、正しく1塁、2塁、3塁、本塁に触れた場合1点が記録される。

## 8. 審判員について（図参照）

- ①審判員は2人制で行う。2人は球審と塁審（1塁）に分かれる。
- ②球審は、打者の正面に立ち、3塁と本塁周辺のプレーをジャッジする。
- ③塁審は、1塁手（ファーストベースマン）の後方、1塁ファウルラインに立ち、1塁と2塁周辺のプレーをジャッジする。
- ④球審と塁審は、打者の打撃が完了し守備者のプレーが一段落（ボールがダイヤモンド内もしくは、内野手か本塁手に返球（捕球の有無を問わない）したと判断したら、常に「タイム」を宣告し、ボールデッド（試合停止球）とし、次のプレー（ティー台にボールをセット）に移るように指示する。

## 9. その他

- ①その他のルールに関しては、日本ティーボール協会公式規則に準ずる。

### 特記事項（次イニングの残塁持ち越しについて）※2019.7.15 日本ティーボール協会に確認

最終打者の攻撃時、走者1塁の場合、フォースアウトを1塁もしくは2塁のどちらでとっても次イニングの残塁持ち越し走者は1塁。走者1・2塁の場合はフォースアウトを1塁もしくは2塁、3塁のどちらで取っても次イニングの残塁持ち越し走者は1・2塁。従って満塁の場合には、どの塁でフォースアウトを取っても、無得点、次イニングの残塁持ち越し走者は満塁である。

※小学校中・低学年（小学1～4年生）及び未就学児の試合であることを十分理解し、安全にティーボールの“楽しさ”を選手らが体験できるようにご配慮願います。